

教員の受賞・研究成果

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。＜2024年7月～2024年10月＞
教員の身分は、記事掲載時の情報です。

理工学部教授 國井康晴ら 第11回ロボット大賞で文部科学大臣賞を受賞

理工学部教授國井康晴らが開発に携わる「超小型月面探査ローバLEV-1&LEV-2」が文部科学大臣賞を受賞しました。人類の活動領域拡大に向け、月惑星探査のニーズが高まっています。2024年1月の月面探査ミッションでは、月面での自律変形・移動(跳躍)、LEV-1などの自律撮影・地球への画像送信が達成されました。また、今後、宇宙開発、月惑星探査は、民間での技術開発も期待されるなかで、小型化・コストダウンを実現しました。これらの成果は、今後の月面探査につながる成果であるとともに、今後の宇宙開発、ひいては科学技術の発展に大きなインパクトを与えるものと評価されました。

受賞日:2024年9月11日



超小型月面探査ローバLEV-1&LEV-2 (左)
授賞式後、プロジェクトで開発している群ロボット「RED」を手に撮影(右)
左より本田顕子(文部科学大臣政務官)、國井康晴教授、前田孝雄(東京農工大学准教授)、
西田昭二(総務大臣政務官)

理工学部助教 李 恒 第17回廣野賞を受賞

理工学部助教李恒が、第17回廣野賞を受賞しました。廣野賞は、レーザを利用した計測に関する科学と技術の進歩を願って、35歳以下の研究者を対象に、今後のレーザセンシング学会への貢献が大いに期待される若手の活躍を奨励すべく毎年1名に授与されます。

受賞題目:ナノカーボン型ミリ波-赤外イメージャーによる視体積交差タイプの非破壊検査実証

受賞日:2024年9月19日



文学部教授 高瀬堅吉 参画する研究プロジェクトがJST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」地域共創分野育成型に採択

文学部心理学専攻教授高瀬堅吉は、表題の事業(代表機関:自治医科大学)に採択された「医療&福祉DXを活用した全世代ケアラーのヘルスエクイティを目指す地域共創拠点」で副プロジェクトリーダーを務め、2025～2026年度にわたって5つの研究開発課題すべてのマネジメントに従事します。



文学部教授 西川広平 第48回野口賞を受賞

文学部日本史学専攻教授西川広平が、単著『武田一族の中世』(吉川弘文館、2023年8月1日刊行)で、郷土研究部門を受賞しました。本書について、「武田氏の成立期から信虎・信玄・勝頼三代までの約500年の歴史を、系譜資料や伝承などから分かりやすく論じていること」が高く評価され、受賞に至りました。西川は同年に単著『中近世の資源と災害』(吉川弘文館、2023年11月1日刊行)も刊行しています。



石川晃弘名誉教授 令和6年度外務大臣表彰を受賞

石川晃弘名誉教授は、「日本とスロバキアとの相互理解の促進」の功績で外務大臣表彰を受賞しました。外務大臣表彰は、日本と諸外国との友好親善関係の増進に多大な貢献をし、特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えらるとともに、その活動に対する一層の理解と支持を国民各層にお願いすることを目的に贈られる賞です。



教育力研究開発機構研究員・文学部特任助教 澁川幸加 日本教育工学会の研究奨励賞を受賞

教育力研究開発機構研究員で、文学部特任助教澁川幸加が、日本教育工学会の研究奨励賞を受賞し、2024年9月8日開催の同学会2024年秋季全国大会にて表彰されました。研究奨励賞は、秋と春の全国大会で優れた研究発表を行い、かつ優れた研究歴を持つ若手研究者に対して贈られるものです。



「+C(プラスシー)」もご覧ください

「+C(プラスシー)」は、中央大学の研究と社会を結び、産学官連携を推進するための情報発信プラットフォームです。研究者のビジョンや研究内容を発信したり、実際に行う産学官連携のプロジェクトに関する情報をWebサイトから発信しています。

